

育成だより

第114号

【発行】 大刀洗町青少年育成町民会議 TEL 77-2670 FAX 77-2760

【編集】 大刀洗町青少年育成町民会議広報委員会

昨年に続き、コロナ禍により、予定されていたほとんどの行事が中止になりました。
青少年育成町民会議にかかわる全ての人が知恵を絞り、今できる青少年育成事業に取り組めました。

令和3年度 大刀洗町青少年育成町民会議の取組み

主な取組みは3つです。

「少年の主張」作文募集 (敬称略)

優秀作文

小学生の部

大刀洗小学校	6年	岩下	遙玖
菊池小学校	6年	尾花	夏音
同	6年	藤井	思華
本郷小学校	6年	辻	まなび
大堰小学校	6年	平田	悠希央

【(2) ~ (6) ページに全文掲載】

中学生の部

大刀洗中学校	1年	橋本	萌伽
	1年	田原	実来
	2年	辻	陽菜
	2年	平田	颯
	3年	棚町	輝人
	3年	池田	紗世

【(7) ~ (12) ページに全文掲載】



優秀作文の展示

期間：令和3年12月1日～24日
場所：ドリームセンター 1階ロビー

「家庭の日」行事共催

中央公民館講座「親子を楽しむ！まなび通信」とのコラボレーション企画

◆まなび通信

今年も講座の代替として、情報発信チラシ「まなび通信」を町内小・中学校の全児童・生徒の保護者宛に配布しました。家庭で作りたいスイーツなどのレシピや時節の話題を取り上げ、無料動画共有サイトから動画も配信しました。

第4回 「夜空のような白桃ようかんレシピ、七夕」他
令和3年7月13日 (火) 発行

第5号 「トースターでできるパンプキンパイ、ハロウィン」他
令和3年10月11日 (月) 発行

◆親子体験「地図の見方とコンパスの使い方」

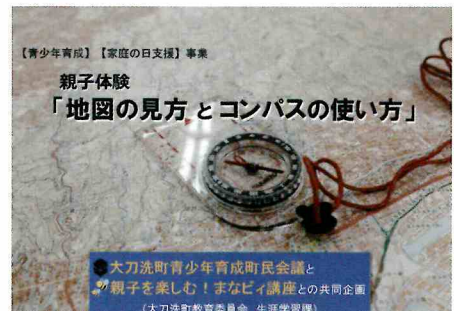
親子での自然体験導入企画として、地図とコンパスの講座を開催しました。

講義から実習へと段階的に実施し、ハイキングや登山に役立つ基礎知識や技能を学んでいただきました。

令和3年10月24日 (日) 開催

講義 大刀洗町中央公民館
実習 大刀洗公園

【(15)~(16)ページに関連記事掲載】



少年の主張

「私からのメッセージ」

小学生の部

明るい社会にするために

大冢洗小学校
六年 岩下 遙玖

「また今日も・・・」

テレビを見ていると、毎日事件や事故、犯罪が報道されている。児童虐待など子どもが被害者となる事件もあれば、SNSによるいじめなど子ども同士で傷つけ合うような事件も多い。「やってはいけないことだとわかっているはずなのに、どうしてそんなひどい事をしてしまうのだろう。」ぼくは、長年事件や犯罪にたずさわってきた元警察官の祖父に聞いてみた。

「うーん、それは難しいね。じいちゃんにも分かんよ・・・。」

祖父の申し訳なきそうに答える姿から、大人でも犯罪をなくすのは簡単なことではないのだと感じた。「ぼくにできることはないのだろうか？」

ふとぼくは、小さかった頃のある出来事を思

い出した。ぼくは、四才の時に引越して、保育園が変わることになった。新しい保育園では、すぐに友達ができず、ずっと一人だった。おもしろくなかった。ぼくは、「保育園なんて行かなくていいや」と、投げやりな気持ちになっていた。そんな時、ある子が、「いっしょに遊ぼう。」

と、声をかけてくれた。「一人じゃなかった・・・。」あの時のうれしさは、今でも鮮明に覚えている。たった一言で、ぼくは暗く沈んだ気持ちに晴れ、前向きになれたのだ。たった一言の言葉の力、人の関わり・・・こんなことが、人を変えるのかもしれない。

そういえば、登校時の地域の方の一言で、「今日も一日がんばろう。」と元気がわいてくる。友達からの「おはよう。」の声かけ、先生からの「がんばりよるね。」の言葉で、心が明るくなり、学校が楽しいと感じる。やはり、こうした周りの人からの声かけや関わりから、ぼくは力をもたっていたのだ。もし、日々の声かけがなかったら、きつときみしく、孤独になっていたかもしれない。犯罪や非行に走ってしまう人は、このように言葉をかけ合う人との関わりがな

かったのかも知れない。

そう考えたぼくは、自分自身が周りの人に声をかけることに取り組んでみた。家族の中で、ふだんは心の中だけで思っていることを言葉にして伝えるようにした。

「ありがとう。」「それいいね。」「手伝うよ。」すると、お互いにうれしくなり、家の中に笑顔が増えた。学校でも、自分から友達や下級生に進んで関わるようにした。運動会では、難しい表現の練習も、友達と声をかけ合い、励まし合ってやり遂げることができた。

ぼくは、自分の経験から、明るい社会にするためには、大きなことはできないけれど、日々の生活の中で、相手を思う言葉をかけ、たくさんの人とつながっていくことが大切だと気づいた。だから、この小さな取組みを、ぼくの周りの人たちと、けい続して取り組んでいこうと思う。「つながり・つながる」とWe「学校の合言葉を社会の合言葉に・・・。」



安心して暮らせる世の中へ

菊池小学校

六年 尾花

夏音

みなさんは、この世の中で性のことで悩んでいる人や不安に思っている人がいることを知っていますか。その数が少なくないことを知っていますか。性に関することで悩みをもっている人々の多くが、差別に苦しんでいることを知っていますか。私はよくユーチューブを見ます。その中で人と見方や考え方が違うことで差別され、苦しんでいる人がいるということを知りました。このことがきっかけで、世の中の「おかしさ」について考えるようになったのです。私は、世の中の「おかしさ」をなくし、全ての人が安心して暮らせる世の中にしていきたいと考えています。

私はまず、性に関して悩んでいる人がどれくらい日本にいるのかを調べました。その数は約四万六千人で、十三人に一人の割合だそうです。クラスに二〜三人はいるということを知り、思った以上に数が多いことに驚きました。

さらに調べを進めていくと、男が女の格好をしたり、その逆であったりすると「変だ。」「気持ち

悪い。」と言われ、病気になってしまった人もいるという事実が分かりました。私も、実際に学校の中で同じような場面に合ったことがあります。女子がサッカーをしているのを見て「女の子なのにおかしい。」「女子だからサッカーをしちゃダメ。」と言って、仲間に入れてあげないのです。実は私も、低学年の頃は同じように、「女子がサッカーなんておかしい。」「女子は女子と遊ぶのが普通だ。」と思っていました。けれど、今は違って、なぜおかしいのか疑問に思います。「しっちゃダメ。」と言っている人は、相手のやりたいことを否定していることになり、言われた人はとても悲しい気持ちになっていくと思うからです。

その他にも私たちの身近にはたくさん「おかしさ」があります。みなさんの周りに、男女で区別されているもの、ことはありませんか。例えばトイレです。それからアンケートにも男女の区別で丸をつけるところがあります。それが普通で、何が問題なのかと思うかもしれませんが、性のことで悩んでいる人にとっては、普通ではないのです。トイレに入りにくかったり、アンケートに答えにくかったりしています。アンケートの男女の区別に丸をつけないことを、

先生に怒られたという人もいるそうです。でも、それは必要なことなのだろうか疑問に思います。トイレもアンケートも、男女の区別をなくし、自由でいいのではないのでしょうか。

私はこれらのことを解決する方法を考えてみました。トイレは、共同トイレをつくる、つまり男女で分けられないのです。「誰でも使えるトイレ」となれば、困る人はいなくなると思います。また、アンケートは男女に関する項目を作らなければいいと思います。内容に関係ないのであれば、答える必要もなく、誰も困らないからです。そして、一番大切にしなければならぬことは、いろんな人がいていい、いろんな人がいるから楽しいという考えをもつことです。人たちがうことが普通なのだと思うことが大切だと思います。

このように、性に関することで悩んでいる人や不安に思っている人が世間にはたくさんいます。人と見方や考え方がちがうことで、差別を受けている人がたくさんいます。みんなが楽しく、安心して過ごすためには、いろんな人、いろんな考え方があるということを知り、受け入れていくことが大切なのです。

だから私は、これから「じぶんだったら」とい

う思いをもち、いつも相手のことを考えて行動していきたいと思います。

よりよい友達関係を つくるために

菊池小学校
六年 藤井 思華

みなさんは、学校などで友達とどのように関わっていますか。どんな友達のことでも大切にできていますか。きつい思いをしている友達は近くにいませんか。

私は、友達との関係で悩んでいたことがありました。私に対する悪口や陰口を耳にして悩み、誰にも相談できずにいました。自分自身も、友達を傷つける言葉を使ってしまう、相手に嫌な思いをさせてしまったこともあり。この経験から私は、友達を大切にできる人になりたいと思うようになったのです。

以前、「ねえ、あの人がどうじゃない？」と、友達のことで尋ねられ、共感を求められたことがありました。その友達のことには、心から嫌いだとか、悪いとは思っていませんでしたが、「たしかに、そうだよね。」と、なんだか共感してしまっている自分がありました。自分自身でもなぜ

そんな話に乗ってしまったか分かりません。でも、今、思うことは、「悪口や陰口」は、絶対にいけないということです。

そのように思うことができるようになったのには、あるきっかけがあります。それは、一学期にあった学級活動の時間、「悪口、陰口」について考えたことです。その授業で、私は、悪口、陰口は、相手の心を傷つけるものだと知り、悪口、陰口の対処法についても知りました。そして、よりよい友達関係をつくるにはどうしたらいいのかを自分の中で考えるようになりました。

そのとき以来、私心がけていることがあります。それは、自分から友達と関わるといこととです。まだ十分にはできていませんが、授業中のペア交流では、なるべく自分から話すように努力しています。緊張はします。でも、やっぱり自分の意見を言えたときは嬉しいですし、友達との距離も少し近づいた感じがします。まだ、上手く言えないことも多く、友達から助けてもらうこともあります。自分から関わることとを大切にしています。友達と関わることを通して、「この人はこんな一面があるんだ。」「こんなことを思っていたんだ。」と友達への見方が変わっていくことも多いです。

また、私のクラス、六年二組では、毎月一回、六の二タイムを行っています。六の二タイムとは、みんなが困っていることやクラスの課題を出し合い、解決に向けてみんなで悩み、考え、解決するにはどうしたらいいかを話し合うものです。話し合うたびに、クラスの課題はたくさん出てきます。しかし、その課題を不満として見るのではなく、みんなが成長するための財産として見ることが大切だと思っています。友達関係で悩むことは悪いことではなく、クラスの友達に相談したり、話し合っ解決したりすることが大切なのだと思いううになりました。

こういったことを通して「相手の立場になって相手の気持ちを想像すること」が何よりも大切だと思うようになりました。悪口や陰口は相手を偏った見方で見てしまっているから出るものだと思うからです。「なぜ、こんなことをしているのだろう。」「どんな気持ちで言っているのだろう。」と相手の気持ちを想像し、友達への見方を変えてみるのですが、よりよい友達関係をつくる第一歩だと思えます。相手を変えようとするのではなく、自分を変えてみることを大切にしていきます。

よりよい友達関係をつくるために、みなさんは、どんなことをしていますか。私は、人との関わりを深め、友達を大切にできる人になりたいです。

言葉のもつ力

本郷小学校

六年 辻 まなび

みなさんは、普段生活している中で、失敗することがありませんか。そんなとき、友達を心配するのではなく、「おつ」や「頭、大丈夫そう？」と失敗をばかにしたような言葉を、聞いたことはありませんか。私があります。本来は、「おつかれ様」や「大丈夫」の言葉は、相手をねぎらったり、心配したりするときに使う言葉です。私は、それらの言葉を相手をばかにするときに使うことは、「間違っている」と思います。

みなさんは、言葉の一つ一つがもつ力を理解し、一言一言を発していますか。そのときの感情に任せて、自分の思ったことを言っていますか。「言葉」という言葉があるように、言葉は生きています。そして、暴力の一つに「言葉の暴力」があり、みなさんの心に大きく関わってきます。今、SNSが身近にあります。自分が

思ったことを簡単に発信することができます。だから、安易に相手の心を傷つけてしまうことも起きてしまうのです。

ある学校の調査で、「相手を傷つける発言をしたことがあるか」の問いに対し、全体の約半数が「ある」と回答したそうです。そして、学年が上がるにつれて、相手を傷つける発言をしたことがあるという回答が増加していました。さらに、傷つける発言をした子どもが多くが、「ふざけて」「軽い気持ちで」という理由でした。私は、言われた側にしたら、心をナイフでえぐるようなつらい気持ちになると思います。そして、この発言がエスカレートしていくと、教室に居場所がなくなり、自分の命を大切にできないことにつながるのではないのでしょうか。相手を傷つける言葉を使うことを当たり前にしなくありません。自分が言った「キモイ」「うざい」「死ね」といったその一言が、相手を傷つけると自覚することが大切です。

私が四年生のとき、クラスの友達とドッジボールで遊んでいました。私は、ボールを取り損ね、「やってしまった」と落ち込みました。そんなとき、友達が、

「次、がんばろう。失敗は、成功のもと。」

と書いてくれました。私は、悲しい気持ちがパッと晴れてきました。そして、前向きに次を失敗しないためにどうすればよいかを考える気持ちがあふれてきました。

やはり、私は、言葉は友達を思いやるために、助けるために使いたいです。そのために言葉を使う前に友達の顔を思い浮かべて考え言葉のブレーキをかけたいと思います。さらに、使う言葉に責任を持ちたいと思います。もし、友達と言い合いになっても、素直に謝ることを心がけたいです。

もし、みなさんの周りで、友達を傷つける言葉が聞こえてきたらどうしますか。一人でその言葉に立ち向かうことは、不安かもしれません。しかし、「私には関係ない」と考えることは間違っています。あなたのおかしい一言で救われる友達がいるはず。だからこそ、相手を思いやる言葉を使うことが大切です。言葉は強い力を持っています。みんなで明るい社会をつくるための言葉を使っていきませんか。



最高の弱小チーム

大堰小学校

六年 平田 悠希央

「悠希央君、パス！」

これは、焦っている僕にかけられた右サイドを守る友達からの声です。

八月。ベーシックで行われた少年サッカー大会、相手チームの二人が、ボールをキープしている僕にむかって攻めてきています。ゴールはすぐそば。絶体絶命のピンチです。僕が抜かれたら、キーパーもシュートを止めるのはほぼ不可能です。そんな時、焦っている僕に友達が声をかけてくれたのです。

僕の所属しているサッカーチームは、人数が少なくあまり試合に出ることができません。でも、練習中に目で気持ちを伝えたり、声のトーンで友達を励ましたりできるほど仲よしです。六年生になると僕は副キャプテンになりました。副キャプテンとしての初めての試合で、僕はディフェンスというポジションにつきましました。ディフェンスは主にゴールを守るポジションです。そしてたまに攻めに参加したり、攻めのサポートをしたりする役目を担っています。

ます。ディフェンスが相手に抜かれると失点してしまうのはほぼ確実です。

副キャプテンとして出場した初めての試合の日、僕は責任感と、ポジションの役目の大きさから、不安と焦りでいっぱいになりました。いつもなら声をかけ合う友達も緊張からか、じつと相手チームを見つめています。僕が抜かれたら、と思っていると、僕にボールが渡ってきました。一瞬の出来事でした。僕のせいで負けるかも。焦る僕は、味方に強すぎるパスを送ってしまい、またもやゴールを決められてしまいました。試合はそのまま進み惨敗しました。そしてその次の試合も、またその次の試合も、この日僕のチームは負け続けました。僕は次第に試合に出ることが嫌になりました。そして、いよいよ、この日最後の試合です。僕は副キャプテンとしての責任と、後輩の頑張りにも励まされ、ピッチに立ちました。「今度こそ。」そう思っているとキーパーと目が合いました。僕達はお互いうなずき合いました。キーパーも僕と同じ気持ちだと一瞬でわかりました。不安も焦りも、くいのない試合をしたいという気持ちも同じでした。

○対○の互角の試合が続きました。残り時間

はもうわずかです。相手のフォワードが勢いよくくつたボールが、ディフェンスの僕の足元に跳んできました。抜かれると一対○。絶対絶命のピンチです。そのときです。

「悠希央君、パス！」

右サイドからの友達の声聞こえました。声が見た方を見ると友達がじつと僕を見ていました。僕は大きくうなずきボールをパスしました。僕の目には、いつも練習していた友達の姿しか映っていませんでした。そして僕を励ます「パス！」の声だけでした。その試合は、一気に形勢が逆転し、勝つことができました。

僕達のチームは、弱小です。でも、いつも笑顔で練習に参加し励ましてくれるメンバーがいいます。負けてもへこたれない強さがあります。そして何よりも僕を信じ声をかけてくれるメンバーがいます。

今日も、僕はメンバーを信じ声をかけます。「大堰SCのみんな、パス!!」



少年の主張

「私からのメッセージ」 中学生の部

身近な凶器

大刀洗中学校

一年 橋本 萌伽

「言葉は時として凶器になる。ナイフなんて比にならないくらい重く鋭く心をえぐっていく。私はこのセリフを聞いてとても胸が、しめつけられた。何故しめつけられたのか。それはこのセリフで世の中が生きにくい事をつきつけられたから、そしてとても共感できたからだと思う。

みんなは今の世の中をどう思っているのか私は今の世の中がきらいだ。誰でも使える、「言葉」というものが凶器として人をあやめるものとして使われているからだ。しかも今はインターネットがある。インターネットは学校の学習でも使われるほど便利なものである。しかし一部の人は、言葉と同様に人をあやめる凶器として使い、人をものすごく追いつめる。このような事で一生に一度しかない命を失っている

と思うのか。誹謗中傷があつていいと思うのか。私は誰でも使える言葉やインターネットの書きこみで人を追いつめる事はあつてはいけないと思う。いや、今の世の中から無くさないといけない。しかし今の世の中から誹謗中傷を無くすという事はそう簡単ではない。だからこそ私達一人一人が考えて動くのだ。私は誹謗中傷がなくなるには「想像力」を働かせることが大切だと思う。一人一人みんなが想像力を働かせることで、相手を傷つける言葉を言う前や書きこむ前に相手の立ち場になり考えることができると思うからだ。

「相手に言う、書きこむ前に三秒でも五秒でも想像力を働かせて相手について考える。」この事を一人一人が少しずつでもやっていけばきつと誹謗中傷という凶器で苦しむ人は、減ると思う。

このように誹謗中傷をなくす取り組みを、少しずつでもみんなが協力して行い、この世の中から「言葉」という凶器がなくなる事を願う。



意見を伝え合う大切さ

大刀洗中学校

一年 田原 実来

みなさんは、だれかと意見がすれ違ってしまったことはありませんか。私は、してしまっただけです。

中学生になつて、ソフトボール部に入部しました。部活では、みんなが上達できるように、練習をがんばっています。しかし、ある日、かん違いから始まったけんかが起こり、とてももめてしまいました。そこで、私たちは、部活の時間を削って話し合いをしました。そのとき、私は、片方の意見しか聞かず、もう片方の意見を聞くことができませんでした。そして、一緒になつて全て相手が悪いように、私も言ってしまうました。このとき私は、

「なんで自分が悪いんだ。」や、「絶対に許したくない。」という気持ちでした。しかし、今思うと、「何をしてたんだろう。」と思いました。最初は相手の意見を聞くと、言い合いになつてしまふことがたくさんありました。しかし、話し合いをしていく中で、相手の意見をちゃんと聞いていくと、「かん違いだったんだな。」と気づくこ

とができ、全員が納得するまで話し合いをすることができました。そして、最後は、相手の意見を受け入れて、解決することができました。

このことを通して、考えたことは、トラブルが起きた原因は、私たちが、お互いの意見をきちんと伝え合うことができていなかったからだということでした。このことができていなかったから、かん違いがおき、けんかになったのだと思います。だから、自分の意見をきちんと伝えて、相手の意見も、きちんと受け止めることが、大切だと思いました。また、もう二度とこのようなことが起こらないように、自分勝手に、行動するのではなく、他の人の意見も尊重して、だれでも認めあえる関係をつくっていききたいなと思いました。

今、部活では、注意するところは、注意したり、自分が伝えたいことは、すぐに伝えたりしながら、目標に向かって、練習することができています。私は、そのために、誰とも話すことを心がけています。クラスでも、一人の人がいないように、周りを見ながら、行動をしていきたいです。今後、私だけじゃなく、一人一人が、自分の意見をきちんと伝えられるようになって、相手の意見を聞き、認めあい、『意見を伝えて、相手の意見を聞き、認めあい、』意見を伝え

合うこと』を大切にしていきたいです。また、誰もが自分の思いを伝え合える、安心した生活にしていきたいです。これからも、みんなと協力して、行事を成功させたり、部活をがんばったり、していきたいです。

緊張から学んだこと

大刀洗中学校

二年 辻 陽菜

「いいですか？」

「わかりましたか？」

授業でそう先生に問いかけられると私はいつも迷ってしまいます。きちんと答えようか、誰かが答えてから自分も答えようか。

みなさんも一度はこのような経験があるのではないのでしょうか。みんな何も言わないから一人だけ返事をするとなんか変な感じになるからなあ。と考えたことや、一人だけ返事をするのは恥ずかしい。など、先生や前に立って話す人からの問いかけに対してのリアクションはタイミングが難しく、逃がすと気まずい雰囲気になると思います。授業だけではなく、集会や行事でも

「おはようございます。」

などの挨拶も私だったら毎回ちゃんと返すか迷ってしまいます。小学生の頃はできていたのに中学生になって、なかなか自分から返そうとは思えなくなり、他人の目や周りからどう思われるかということばかり考えるようになってしまいました。

しかし、そんな考えはあるきっかけでガラッと変わりました。それは、所属している吹奏楽部で部長を務めるにあたり、部員全体へ初めてのあいさつをした時のことです。私はあいさつをするまでとても緊張していました。絶対にそんなことはないと分かっている、皆に反応してもらえなかったり、微妙な雰囲気になってしまったらどうしようなど、余計なことを考えていたせいで、さらに緊張していきました。ですが、この緊張で私は気づきました。いつも前に立つ先生や発表者はこんな風に緊張しているのかもしれない。慣れているように見えても心配な気持ちはどこかにはあるはずだ。そう気づいた時から私はきちんと返事やリアクションをしようと思ひ、実行し始めました。今までの「誰かが返してから自分も返そう」という考えは自分に甘く、他人任せだったのだと思うと、この考えの方が一人だけ返事することよりも

恥ずかしいことだと思えるようになりました。もし声を出せなくてもうなずいたりして反応をすることはできると思います。だから、是非小さなことからでもやってみて下さい。きっと、自分も相手も「よかった」と思えるようになります。

「いいですか？」

「わかりましたか？」

そう言われてももう迷わない。勇気を出して返事をする事、みなさんも始めてみませんか？

努力は実る

大刀洗中学校

二年 平田 颯

ぼくが、中学一年生のとき、数学の計算問題が苦手で、他の教科の勉強などもあまりできませんでした。そのためテストの点数は低く、もうだめだと決めつけて勉強をしようという気持ちになくなってしまいました。このときのぼくの気持ちは塾に行つてなかったから授業で分からないところがあつても仕方ないし、出来なくてもしょうがないと思つていました。

しかし、中学二年生になるとこのままではいけない、勉強をしつかりやらないといけないと

いう心に変化が表れました。勉強をしつかりするために塾へ行きはじめました。そして、必死に勉強をしました。しかし、勉強をし始めたときは、全く結果が出ず、テストの点数にもあまり変化が見られなかつたので、途中で勉強をやめたくまりました。しかし、そのときのぼくは、勉強を始めて少ししか経っていないのにあきらめるのはダメだと思い、一学期の期末テストに向けて勉強することを再開しました。さらに、塾だけでなく、学校の授業や、家での勉強にも力を入れて取り組みました。そうすると、今までは、分からなかつた問題が分かるようになっていきました。また、家での予習や復習をすることで、まだ習つてない問題が解けるようになっていきました。授業の内容も理解する事が増え勉強が苦手だという気持ちがなくなりました。特に数学は目に見えてどんどん解けるようになっていきました。勉強を通して、分からない問題が解けるとスッキリした気分になり、たくさんの問題を解こうという気持ちになるようになっていきました。この経験からぼくは、前より少しだけ勉強が好きになりました。

いよいよ一学期の期末テストの日になりました。

した。ぼくは前のテストよりいい点数をとれるか不安でした。実際にテストが始まると、数学や国語などの問題をスラスラ解いていくことができ、とても早くテストが終わつたように感じました。前よりは解けたという実感があつたので、きっと点数は上がったはずだろうという期待を持ちました。そして、テスト返却日になりぼくはとてもドキドキしていました。その緊張の中、テストを手渡され点数を見たとき、前回のテストよりいい点数を取ることができていました。

つまり、これらのことからぼくが言いたいことは、努力は裏切らない、努力は実るといふことです。テストでいい点数を取るために頑張つたことがきちんと点数に表れたということは達成感につながり、次もやってみようという気持ちにつながることができました。

私のこれまで。そしてこれから。

大刀洗中学校

三年 棚町 輝人

私は中学一年生の三学期から学校に行かない日々が続いていました。二年生になって新型コロナウイルス感染症で世間が大変なことに

なっている中、六月に学校が再開し、教室に行くつもりでした。しかし、今となってはとても大切に信用している友人からの「お前学校来いやん」という連絡にも、当時の私は言い訳し、目を背け、「教室」から逃げました。こんなにも私の「教室でみんなと学ぶ」という意志は軽く、薄いものでした。それから先生の勧めで適応指導教室へ通い、「だるいな」と思いながら学校に行っていました。

しばらく経って、私は理科に興味をもちはじめ、ある先生と仲良くさせていただき、尊敬するようになりました。学校にいる間はほとんど理科を勉強していました。しかし、今思えば他の教科、物事から逃げていただけだと、過去の自分を責めています。実際口では苦手と言っておまかしながら本当は心の中で「勉強しても無駄」と決めつけて逃げていただけでした。

そんな中で理科だけ学ぶのにも限界がきました。それは、計算力や数学についての知識の不足だということです。

そして、唯一楽しいと思っていた理科まで嫌だと感じてしまい、私は自分のことをものすごく責めました。何事にもイライラしたり、集中力が低下して精神が不安定になったりして

ました。ついには一番身近な家族に自分に対する怒りを向け、口を利かず、返事もせず、笑顔も無くなっていきました。何も考えられず、自分が吸う空気を自分で重くし、自分で自分の首をしめ、勝手に苦しんでいました。「ものすごく無駄な時間を過ごしていた」そう思っています。

そんな日々を過ごしながらだんだん自分でも「このままでは、だめだ。変わらない」と気づきはじめました。自分では変われず、先生に相談しましたが、そしてその先生がだんだん自分の目標へと変わり、「こんな人になりたい。困っている人、悩んでいる人に手を伸ばせる余裕のある人になりたい」と思いはじめました。先生と全く同じ道を通ることは厳しいですが、私は、中学校の教師になると決め、二年生の三学期に約一年間の暗闇から光へと一步を踏み出し、教室に行くようになりました。小さいころからの友達が笑わせてくれてそれが支えになつていき、最初は緊張でいっぱいでしたが、その緊張もなくなっていきました。勉強についていくために休日にわざわざ時間をつくっていただき、英語を教えていただいたりもしました。信用できる友人も増え、笑顔が何倍、何十倍にも増えて学校に行くことや友人といること

がとても楽しくなりました。

私は恵まれています。私を生んでくれた母、いつも支えてくれる友人や先生方。私を今の「私」にしてくれた方々みんなに感謝してもしきれません。「変わらない」という自分がつくってくれたチャンスから逃げず、壁に立ち向かい、変われました。

あの時、私に変わるチャンスをくれた自分、そして支えてくれた方々に伝えても伝えきれません。どうか受け取ってください。

「私を助けてくれて、ありがとう。」

私はスマホに支配されない

大刀洗中学校

三年 池田 紗世

私はスマホを使っている。毎日使っている。ラインもしているし、ゲームもしている。多くの時間をスマホを使うことに費やしている。私はスマホ中心の生活にどっぷり浸っているのだ。そんな日々を過ごしている私だが、私はここに宣言する。

「私はスマホに支配されない。」

なぜ私がスマホに支配されたくないのかと言うと、私は直接的な人との関わりが大好きだ

からだ。友達とも家族とも、できるだけ話したい。その時間やチャンスをスマホに奪われたくない。

しかし、今の自分はどうかだろうと、振り返ってみる。スマホをさわらないようにと意識していても、ついついスマホを手にしてしまう自分がある。気がついたらスマホの画面を見ている。これではいけない。

では、どうすればこのスマホ依存の私を変えられることができるだろうか。自分を変えるのは自分自身だ。

スマホ依存の生活から抜け出すために、まず、何から始めようかと考えてみた。そこですぐにとりかかれそうなことを三つ考えた。

一つ目は、使う時間を決めることだ。スマホを一日一時間以上は絶対に使わない。本来なら全く使わないというのも良さそうだが、私には実行できそうにない。だから、まず、「一日一時間」と使用できる時間を制限することを決めた。

二つ目に、スマホを手に取りにくい場所に置くことを決めた。スマホを見るとついつい手にとりたくなるので、自分の部屋ではない所に置くことにしよう。すぐ使えないように電源も

切っておくことにしよう。

三つ目に、スマホのアプリを減らすことを決めた。使いはじめたら、長時間見てしまうアプリやゲームは全て消した。夢中になってしまうものを減らして、できるだけスマホを見ないようにしよう。自分の中でそう決めた。

事実、スマホはとても便利だ。困ったときや分からないとき、とても役に立つ。しかし、長い時間、動画やゲームをした後、私の頭の中はボーンとしていている。そして、無意味なことに時間を費やしてしまった罪悪感におそわれる。連絡をとることや、情報を得ることも時には必要なので、その手段としてスマホを使いこなしたい。そうすれば、私はスマホに支配されずに、充実した日々を過ごしていけるのだ。

スマホに支配されない自分が楽しみだ。きつと勉強も、もつと良くできるようになるだろう。友達とも直接の会話を通して、もつと友情が深まるだろう。スマホを使っていた時間で、多くの本を読んで、世の中のいろいろな人の考え方を知るだろう。もともと好きだった工作もまた始めたい。睡眠時間もたっぷりとることができ、授業も良く聞けるだろう。

私は友達にも、私が考えた三つの取り組みを

勧めたい。一緒にスマホから脱却することを願う。もつと語り合いたいし、学び合いたい。

ここまで書いたところで、私は実行にうつった。数日間、私はスマホに支配されずに生活している。とても快適だ。これからも続けていく自信がある。

これからも、スマホに支配されずに、スマホを使いこなしながら毎日を過ごしていきたい。時間は限られているのだから。

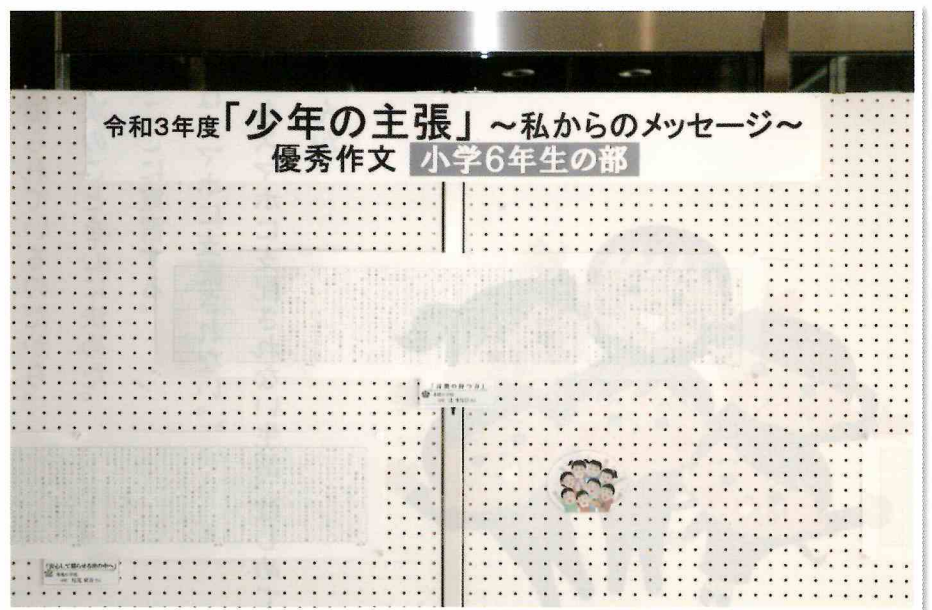
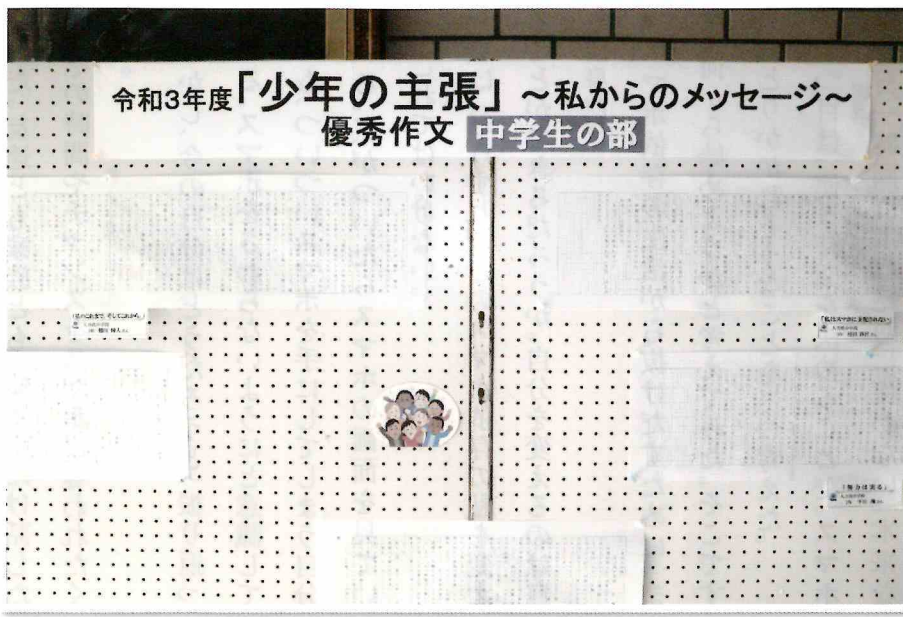
私は次のことを心に決めた。

私はここに宣言する。

「私はスマホに支配されない。」

あなたもスマホに支配されない生活、はじめてみませんか。





今年も開催、ウォーキング大会！

大堰校区民会議
綿貫 比呂美

令和三年十一月六日(土)第二十一回大堰校区ふれあいウォーキング大会が開催されました。大人七十三名、小学生以下四十名、中学生ボランティア十三名の参加でした。

一 幅広い世代間交流

小学生以下から、中学生、大人と地域の幅広い世代間交流のきっかけを作る場になっていると感じました。

以前は小学生として参加していた子が、今年には中学生ボランティアとして、皆を誘導する姿を見る事が出来て嬉しく思いましたし、その姿を見て、今参加している子達にも続いてほしいと願いました。

二 大刀洗町の自然に触れる

「この野菜知つとる」「あれはレタスやろう」と、子ども達は地域で育てられている農作物について良く知っているなど感じました。

田園風景の中を班毎に歩きながら、改めて大刀洗町の自然を感じる事が出来ました。

三 そしてまた来年も

憩いの園を出発し、片ノ瀬公園に到着後は貝を宝に見立てた宝探しをし、見つけた人には景品がありました。途中ヒントをもらい、楽しいひと時を過ごしました。

帰着後はお楽しみみの抽選会です。沢山の笑顔を見る事ができました。残念ながら当たらなかった子が「来年は当たるといいな」と一言、また来年の開催を願いますし、開催にあたりご協力頂いた皆様に感謝致します。



収穫した米で羽釜飯

本郷校区民会議
副会長 大野 愛里

「なつかしか！」「子どもの頃、まき割りを手伝われた。」
十一月中旬、経験者は記憶をたどりつつ、初心者ワクワクしながら羽釜でのご飯炊きに向けて事前準備を行った。

コロナ禍で、学校や地域の行事、育成会活動も中止が相次いだ。「歩く大会、どこ行くか?」「もちは食べんと?」と、子ども達の残念な声が寄せられた。「何かしたい」より「できることをしよう」という思いも広がりました。

育成会は、子育て支援グループに属し、第一回の活動は例年の餅つき大会に変わり、五年生の総合学習の一環としてカマド・羽釜による炊飯体験を支援した。子ども達は、田植えに始まり、稲刈り、脱穀と一連の体験を地域の方達の指導のもと、米づくりの良さや苦勞を学んだことであろう。近年、自然災害が相次ぎ、それに対応できる自分の命を守る為、防災訓練を兼ねての取り組みでもある。

「初めチヨロチヨロ、中パッパ」「赤子泣くとも蓋取るな」のかけ声のもと、自分達で収穫した米で炊飯した羽釜飯は格別で、口いっぱい頬張り、晩秋の空に笑顔が広がった。
育成会活動が地域の支援を受け、祖父母そして親から今を生きる子ども達へと継がれて来た。コロナ禍の子ども達にありふれた日々が戻り、未来へと継がれていきますように。



一年を振り返って

大刀洗校区民会議
平田 博文

「おはようございますー行ってきますー！」

今日も元気に学校へ行く子どもたち。コロナ禍の影響で色々と制限されているにも関わらず、毎日友達と楽しそうに登校している。「以前のよう

に、マスクをせずにたくさん友達とおしゃべりをして、運動場で遊んで、学校行事も楽しみたいだろう」と考えるたびに心苦しくなる。これは、小学生だけではない。中学生や高校生、大人だってそうだ。通勤・通学時はもちろん、職場での不安も大きいのではないだろうか。緊急事態宣言による行事や飲食会場の中止、マスク着用の徹底など、今まで普通に出来ていたことができなくなってしまった。あたり前になっていたことが、あたり前ではなくなってしまったのだ。

巡回バスで、あるお年寄りに会った。その方は遠方に住んでいる娘や孫に会いたいと話していた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を気にして帰省しなかつたらしく、「元気にしとるやかねえ。」と、少し心配している様子だった。「会いたい人にも会うことができない。そんな日々がいつまで続くのだろうか」と思うととても不安な気持ちになる。

子どもたちの見守りや巡回バスなどの地域活動を通して、様々な行動制限がある中で、苦勞しつつもその中に楽しさを見つけて出したり、友達と遊んだり、それぞれが努める姿を見ることができた。コロナ禍で大変な今だからこそ、一人ひとりの高い意識と正しい行動が必要なのだ。

毎日のニュースで新型コロナウイルスに関する報道が流れない日はない。学校行事や家族で出かけられる日常、あたり前のように地域の方や子どもたちの明るい笑顔を見ることができている日常が早く戻ってきてくれることを期待している。



伝統行事の「もぐらうち」を楽しむ

菊池校区民会議
近藤 和廣

「十四日もぐらうち、ねぎだれ、けーだれ、うちまくれ」の掛け声の後、子どもたちが一斉に先端に稲わらを巻き付けた青竹で地面を叩きました。

一月八日、青少年健全育成菊池校区民会議（黒岩優会長）の伝統行事部（高柳幸藏部長）による「もぐらうち作り」と「もぐらうち」が行われました。参加したのは菊池小学校の児童約七十人。小学校の体育館に青竹、稲わら、麻縄、軍手が準備されています。伝統行事部の役員に手伝ってもらいながら、子どもたちは懸命にもぐらうち作りにチャレンジ。

稲わらを巻いた先端をわら切りで切ってもらった後、運動場へ。雲一つない青空の下、子どもたちは輪になってもぐらうちを楽しみました。三年生の土屋光妃さんと田中心結さんは「面白うそうだから」と初めて参加。「縄をしげるところが難しかった。もぐら打ちでもぐらを退治できたと思っていきます」とうれしそうでした。

菊池校区民会議は、十一月の「歩け歩け大会」と一月の「もぐらうち作り」と「もぐらうち」を主催事業として実施していますが、十一月の「歩け歩け大会」は新型コロナウイルスの感染者が急速に増加した夏の第五波のときに開催の可否を判断しなければならず、中止になりました。二〇二二（令和四）年度は二つの事業が開催できることを願っています。



青空の下でもぐらうち



懸命にもぐらうち作り

親子を楽しむ！

まなビィ講座



『家庭の日』と親子対象の講座『まなビィ』とのコラボ企画、親子を楽しむ！まなビィ講座。
令和3年度は、2回まなビィ通信を発行し、1講座を開催しました。

まなビィ通信

まなビィ通信 第4号

令和3年7月13日(火)発行

- 夜空のような白桃ようかんレシピ
- 七夕の紹介(由来、七夕の飾り、筑後地方に伝わる七夕スイカなど)



まなビィ通信
第4号 2021.07.13
発行 / 筑後県教育委員会 生活学習課

夜空のような白桃ようかん レシピ

材料 (1人分) (16cm×6.5cm×4.5cm 寒天製菓用型は約10cm×7cm)

- 白桃ようかん 100g
- 白桃(冷凍) 50g
- 白桃のシロップ 50ml
- 寒天 2g

●作り方

- 1) 白桃 50gの砂糖で、5分ほど砂糖を煮込んでおく
- 2) 白桃、寒天を砂糖の煮汁の中に入れてよく混ぜる。煮汁がけから砂糖を3分ほど煮ると、砂糖がなくなる
- 3) 寒天は、アクがなくなるまでよく洗う。寒天の煮汁を白桃の煮汁と混ぜ、アクがなくなるまでよく煮る
- 4) 型に白桃のシロップと白桃を入れ、寒天を投入し、寒天が溶けるまでよく煮る

毎月第3日曜日

家庭の日

家庭の日(毎月第3日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしよう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 子どもを離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

QRコード

「夜空のような白桃ようかん」作り方動画



まなビィ通信 第5号

令和3年10月11日(月)発行

- ハロウィン
- トースターでできるパンプキンパイ

パンプキンパイ できあがり

まなビィ通信
第5号 2021.10.11
発行 / 筑後県教育委員会 生活学習課

ハロウィン

◆ハロウィンは10月31日ハロウィンです。ハロウィンの衣装を着てお楽しみしたり、ホラー音楽のイベントとして多くの人が楽しむのが一般的です。アメリカでは、衣装を着た子どもたちが「Trick or treat」トリック オア トリート(お菓子をくれなきゃいたずらするぞ)を唱えて、お菓子をもらったりします。

◆日本のハロウィンは、お菓子や飲み物のイベントとして、お祭りやパーティーを開催する人も増えています。お祭りやパーティーのイベントとして、お祭りやパーティーを開催する人も増えています。

トースターでできるパンプキンパイ

材料 (1人分)

- パンプキンペースト 200g
- 砂糖 大さじ2
- 卵黄 1個
- ベーキングパウダー 少々
- 塩 少々

作り方

- 1) パンプキンペーストを冷ましておきます。砂糖を加えてよく混ぜます。
- 2) 卵黄を加えてよく混ぜます。ベーキングパウダーを加えてよく混ぜます。
- 3) 生地をトースターで焼きます。焼き時間は様子を見ながら調整してください。

～親子体験「地図の見方とコンパスの使い方」講座～

講義

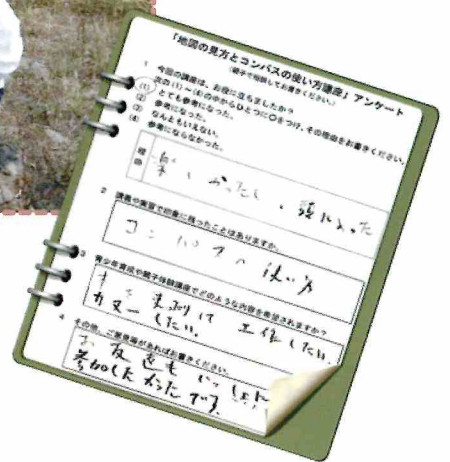
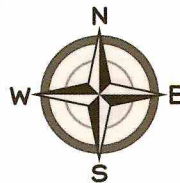
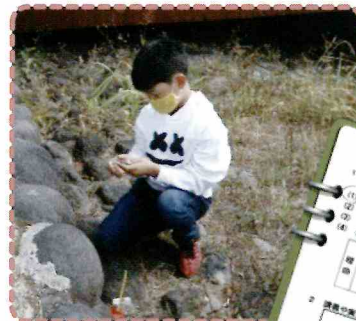
令和3年10月24日(日)開催

方向音痴の改善策から始まり、地図を読むために必要な地図記号や等高線、いろいろな北の求め方、コンパスを使った現在地の求め方や目的地への行き方などを学びました。



実習

清々しい秋晴れの下、まず自分が100mを何歩で歩くかを知り、大刀洗公園全面を使って方位と距離(コンパスと歩測)のみで目標を探していく「コンパスコース」を実習しました。親子で協力して取り組み、笑顔で会話も弾みました。コンパスの使い方はもうバッチリです。



編集後記

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、編集会議ができないなどの影響を受けました。

小・中学生による「少年の主張」は、皆さんの前での発表はかなわず、ドリームセンター・ホールでの掲示および本誌への掲載のみとなりました。しかしながら、彼らの主張は、社会を見つめ、自分を見つめ、苦悩しながらも懸命に前へ進もうとする姿が訴えられており、力強さと頼もしさが感じられました。

また、各校区では、さまざまな活動を通じて地域全体で子どもたちを育てていこうと努力されており、将来に明るい希望を感じました。

(田島 孝三)

【編集委員長】

本郷校区 田島 孝三

【編集委員】

大堰校区 永野 比呂美

本郷校区 綿貫 比呂美

大刀洗校区 高田 みどり

菊池校区 平田 博文

事務局 近藤 和廣

事務局 久保 季美

事務局 原 勝美

事務局 山 亜聖